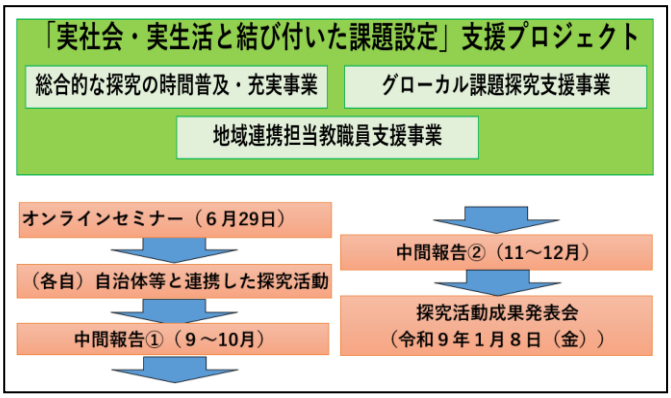
令和８年度(2026 年度) BRIDGE 構築事業「実社会・実生活と結び付いた課題設定」支援プロジェクト

グローカル課題探究支援事業　オンラインセミナーレポート

本プロジェクトは、「総合的な探究の時間普及・充実事業」、「グローカル課題探究支援事業」、「地域連携担当教職員支援事業」の３つの事業で構成しています。そのうち、「総合的な探究の時間普及・充実事業」では道内を10地域に分け、地域ごとに指定校を１校指定しています。今回実施した「グローカル課題探究支援事業　オンラインセミナー」は、JICA北海道の協力を得て、指定校に在籍する生徒のうち、地域課題の解決に向け、グローバルな視点で探究活動をすることに興味・関心がある生徒を対象に実施しました。



「『実社会・実生活と結び付いた課題設定』支援プロジェクト」概念図

「グローカル課題探究支援事業」は、グローバルな視点での探究活動を行うことを通じて、生徒の言語能力、情報活用能力、問題発見・課題解決能力や、探究活動を実社会の課題解決に結び付ける力を育成し、地域に貢献できる人材の育成を目的としています。オンラインセミナーでは、はじめに、「問い」とは何かを理解した上で、「問い」を具体化しながら練り上げていく方法や、身近な課題解決のために地球規模の課題を考える意義などについて学びました。

本事業に参加する生徒は、自治体等と連携した探究活動に取り組み、令和９年１月に成果を発表します。成果発表会では審査が行われ、上位チームは１月27日（水）に開催する「Ezo探究-festival」において、ステージ発表とポスターセッションを行う予定です。

本レポートでは、令和８年６月29日（月）に実施したオンラインセミナーの様子をお伝えします。

１　オンラインセミナーの概要

○　**講　師**　北海道大学教育イノベーション機構教育推進研究部　講師　田　中　孝　平　氏

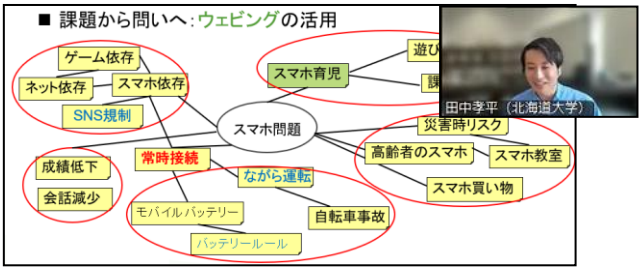
○　**テーマ**　「問いを練り上げる技法ー素朴な疑問から『地域と自分をつなぐ問い』へー」

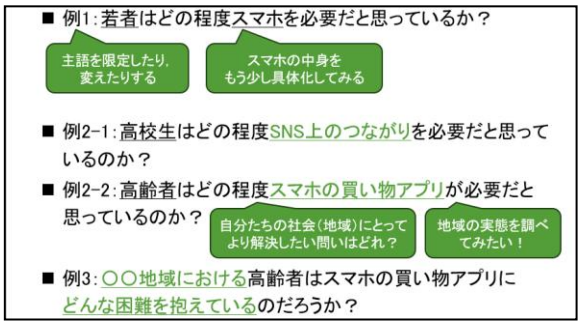
【講義・演習１】

講義では、「スマホ問題」を例に、ウェビングマップ（※）を使って具体的な問いを立てる方法や、問いを実行可能性のあるものに具体化していく方法について説明がありました。

ウェビングマップは、マインドマップとも呼ばれますが、こうした思考ツールを活用することにより、課題や問い、調べてみたいことなどが発見しやすくなります。

また、問いを実行可能性のあるものにするためには、右図のように、「若者」を「高校生」へ変えることにより主語を限定したり、「スマホ」を「SNS 上のつながり」と変えることにより内容を具体化したりすることが有効です。





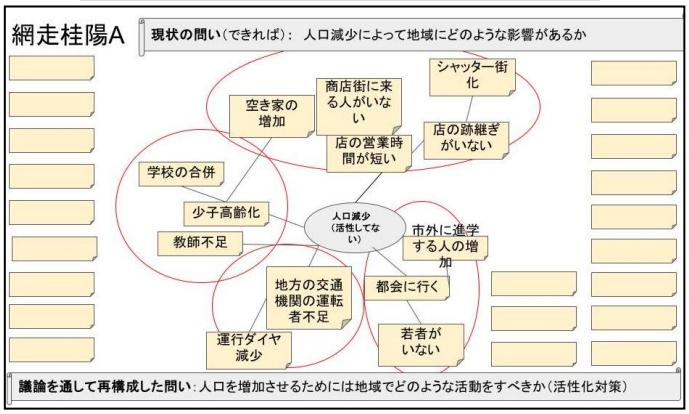
演習１では、「格差」をテーマに、Google スライド上で、講義で学んだ方法を活用して課題を深堀りする練習を行いました。参加した生徒たちは、「格差」というテーマ（課題）から、「教育格差」、「男女格差」や「地域格差」などのキーワードを挙げながら課題を深堀りし、設定すべき問いについて考えていました。

（※）ウェビングマップ…中心となるテーマを紙やデジタル上に置き、そこから関連する言葉やアイデアを線でつなげて広げていくもの。

また、JICA 北海道の山崎みつ美様から、「世界の『格差』の現状及び世界規模の課題を考える」と題して、世界の現状に触れながら、世界で起きている問題と私たちの身の回りで起きている問題は、資源や機会の偏りという観点で、実は構造が同じであるとの説明がありました。

【演習２・交流】

演習２では、各校において「総合的な探究の時間」等ですでに設定した課題や、現在気になっている身近な課題等について、演習１で行った分析の手法を用いて問いの具体化に取り組みました。ウェビングマップにより思考を可視化し、現状の問いをより練り上げるためにはどのようにするべきか、探究を行うグループごとに真剣に議論をした後、講義、演習等を踏まえ、今後の探究活動に向けて、取り組むべきことなどについて交流しました。



【今後の取組】

最後に田中先生から、「課題解決の方策を考える際に、各地域においてすでに行われている取組はないか、あるとすればどのような特徴があり、また、どのような課題があるのかなど、現状についてきちんと把握することで、まだ誰もやっていない、高校生らしい新たな方法を思い付くことができる」というアドバイスや、JICA北海道の山崎様からは、「すでに探究課題を設定していたとしても、改めて様々な視点で課題や問いを掘り下げ、自分たちの探究の目標は何なのか、何のために活動しているか、持続可能な取組なのかなどを見直しながら探究を進めてほしい」という今後の活動へのエールをいただきました。

２　参加生徒の声（令和８年７月 14 日現在、回答数 36 人）

参加者に対して行ったアンケートでは、本セミナーの講義や演習を通して学んだことを活かして、今後の探究活動に取り組んでいきたいという声が多く聞かれました。

（今後の抱負）
- ○　今回のセミナーや他校の実践から学んだことを生かし、多様な視点や考え方を今後の活動に取り入れたい。
- ○　地域活性化や地域貢献を目指し、地域の魅力発信や交流イベントなどを実現したい。
- ○　仲間や地域の方々と協力しながら、計画した活動を主体的に実現・継続していきたい。
- ○　探究活動を通して自分自身の成長や進路につなげるとともに、後輩にも引き継がれる持続的な取組にしていきたい。

（感想や意見等）
- ○　問いの立て方や探究の進め方、多様な視点で考えることの重要性について理解を深めることができた。
- ○　他校との交流や意見交換を通して、新たな考え方や視点を得ることができ、有意義な学びとなった。
- ○　地域課題と世界の課題とのつながりや、課題の本質を捉える視点など、探究を深めるための新たな気付きが得られた。
- ○　学んだ内容を今後の探究活動や地域での実践、将来や日常生活にも生かしていきたいという意欲が高まった。